

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部広報体制を確立し、アドミッション・ポリシーを設定、公表する	→アドミッション・ポリシーの設定、学部内における広報委員会の創設、広報媒体作成・HPの改編および受験生および在学生への定期的な情報発信	B	B			
2. 入学試験別募集定員・受験科目の見直し	→2012年度入試を目指した入試制度改革案の確立	B	B			
3. 在籍学生数管理の徹底	→入学者数、在籍学生数(入学者数を収容定員650名以内に抑える)	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	<p>(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない</p> <p>(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない</p> <p>(受け入れ方針) アドミッション・ポリシー「社会学部 ～幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てる～ 社会学とは、人と人の関係、家族・学校・企業やさらには地域・国家といった集団と人の関係、そしてそれらの集団と集団間の関係の中から生じるさまざまな事象にアプローチし、より理想的な社会のあり方を模索していく学問です。とりわけグローバル化や高度情報化が進んだ現代社会の本質を探究するためには、高等学校において基本とされる各教科を幅広く学習し、大学での学びの基礎的知識・教養を習得するための準備を行う必要があります。 またそれらを基にして、既存の研究領域にとらわれない柔軟でバランスのとれた思考力、自主的な行動力、そして鋭い観察力や分析・検証能力を涵養することが必要です。社会学部は「真理はあなたたちを自由にする」という聖句を基本精神とし、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てるために、意欲に満ちあふれ、さまざまな適性を有した多様な学生たちを受け入れることを基本的な方針としています。 一般入学試験、センター利用入学試験においては、こうした点をふまえ、入学試験科目や配点を決定しており、本学部で学ぶための学力判定を行っています。」</p> <p>(説明) 「幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てる」というコンセプトのもとに、アドミッション・ポリシーを決定した。このポリシーの実現のために、以下の取り組みを実施した。 (1) 一般入学試験、センター利用試験に際して、高い意欲と多様な適性を持つ学生の受け入れを促す科目・配点の決定。センター利用試験については「倫理・政治経済」の科目を新たに追加した。 (2) 学生の幅広い学習と社会的な関心の高揚を促す学部教育プログラムの実施。 (3) 障がいのある学生の受け入れについては、「学生の誰もが等しく学べるよう、障がいのある学生に対して修学支援を行う」との大学の方針のもとに、総合支援センターと連携して受け入れ態勢を整えている。</p>
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	<p>(説明) 一般入試と各種入試（AO入試やスポーツ選抜入試、指定校推薦など）について、募集定員における比率と実際の入学者における比率に開きがあったため、2012年度入試より募集定員を修正・適正化した。入試結果は随時開示し、透明性を確保している。</p>
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	<p>(説明) 2011年度の入学定員設定650名に対して、実際の入学者は643名であり、定員以内とした。</p>
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
	<p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明) 入学者選抜結果については、毎年度の計量委員会が一般入試の志願者動向および入学状況を分析し、教授会に報告し、検証を行っている。また、方針に基づく学生募集の適切性については、入試制度検討委員会にて学生の入学後の成績追跡調査を実施し、分析・検証を定期的に行うとともに、制度の点検に向けた情報を蓄積している。</p>
その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名	650	475	650	650	650	
指標2	志願者総数	人	7,077	7,865	7,983	7,104	6,196	
指標3	合格者数	人	2,355	1,744	1,869	1,653	1,653	
指標4	入学者数	人	821	561	735	668	643	
指標5	志願者倍率	倍	10.9	16.6	12.3	10.9	9.5	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.08	1.08	1.09	1.10	1.11	入学者数÷入学定員
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	73.6%	66.5%	62.2%	55.5%	54.4%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	2,620	2,445	2,445	2,435	2,425	
指標9	在籍学生数	人	2,837	2,726	2,819	2,896	2,767	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	108.3%	111.5%	115.3%	118.9%	114.1%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人	14 (8)	17 (7)	16 (9)	8 (10)	(3)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	20	20	20	10	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	70.0%	85.0%	80.0%	80.0%	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人	21	17	25	13		

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

(その他の指標データ)

入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】

地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合

科目等履修者の入学者数

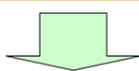
聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目5.0.1		
小項目5.0.2		
★小項目5.0.3		
小項目5.0.4		
その他		
↓		
《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目5.0.1		
小項目5.0.2		
★小項目5.0.3		
小項目5.0.4		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○アドミッション・ポリシーのもとで、志願者倍率、収容定員に対する在籍学生数比率、一般入試入学者比率は安定した傾向を示しています。
○今後はさらに、追跡調査の活用などを通じて、アドミッション・ポリシーに沿った学生の獲得ができてきているかを質的な面からも検証を行うことが期待されます。

【学内委員】

○在籍学生数は、入学辞退者、留年生の数の正確な予測ができないので、定員と過不足なくということは難しいと思われませんが、定員以内というだけでなく、不足することもないように管理することが期待されます。
○アドミッションポリシーを作成し、それに基づいて入学試験の科目や配点などの見直しを適宜行っている点は評価できます。入学定員に沿った入学者の確保については、今年度は入学定員をわずかに下回ったものの、全体的な傾向としては適切な数値に向かっており、評価できます。入学者に占める一般入学者の比率が減少している点については、内容の検証が必要と思われます。
○小項目5.0.1については、大学基準協会では「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」を基盤評価のひとつとしています。従って、これに関する記述が必要かと思われます。
○小項目5.0.2については、現状においての学生募集方法、入学者選抜方法はどのように行っており、それが適正であるかどうか、透明性を確保する措置はどのように行っており、それが適正であるかどうか、などについて聞いていると考えられます。この視点での記述が必要かと思われます。
○昨年度、改善すべき事項に示された改善すべき事項と改善方策について触れることでPDCAが機能しているか確認することが出来ません。なお、昨年度改善すべき事項に記載された「目標数」は示される必要はないかと思えます。定員数を示せばいいのではないのでしょうか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・アドミッション・ポリシーを決定し、それに基づいて入学試験全体の検討、実施を行っていることは評価できます。
- ・設定されたアドミッションポリシーに沿って、試験科目や入学定員が設定されている点は評価できます。また、各種入試制度を用いることで多様な学生の確保も進んでいると思われします。
- ・編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

5.0.1 一般入試、センター利用入試、AO入試については各入試要項にアドミッションポリシーを掲載している。

★ 5.0.2 一般入試以外に、AO入試、外国人留学生入試、指定校推薦入学など多様な入試・選抜制度を採用し、実施した。

選考は各入試の実行委員会が選考結果案を作成し、教授会で審議の上、入学者を決定している。

教授会では、常に各入試の趣旨及び募集定員にもとづいた適正な入学者であるかについて議論がなされている。

5.0.3 2010年度実施の各種入試では定員数を超えた入試形態もあったため、計量方法やモデルを改良し、定員に近い643名の入学者を確定し、定員における入学者数を0.99と限りなく1に近い数値とすることができた。